

雑 報

550.8:627.8(523.4)

愛媛県銅山川発電隧道について

1. 銅山川柳瀬堰堤工事が進捗するとともに、三島発電所の建設工事は着々進められている。

今回愛媛県銅山川発電建設事務所の要望に応え、三島側および柳瀬川の切替隧道を調査した。三島側の切替隧道は延長約880mで、現在三島側から350m余と、本線隧道内から約200m余を掘進中である。柳瀬川側においては580m余を掘鑿して本線隧道に貫通している。添付隧道断面図は両切替坑道の坑内地質図で、三島側においては未だ貫通していないので、坑口から300mまでの資料である。(印刷省略)

2. 水室調圧水槽

三島側隧道の坑口から約95m地点に、水室調圧水槽を構築する計画がある。この附近の地質状態は主として結晶片岩の石英・雲母片岩で、走向 N80°E あるいは N80°W、傾斜 15°N で、近くに大小の断層がある。ここに直径 4.8m、高さ 56m の水槽を作り、さらにこの中間に長さ 26m、15m の下室・中室を水平に作ろうというのである。隧道の方位は N35°W で、この附近の走向に

553.661.2:551.78:550.85(521.82)

島根県東部地区第三紀層中の硫化鉄鉱床調査報告

本報告は昭和27年5月28日より6月7日に至る間、鉱床概査を行ったものの報告の抄録である。

1. 乙立 鉱山

鉱業権関係

島根県試登第 3261 号 面積 14,628 アール

鉱業権者 鉄 勳

本鉱山は島根県簸川郡朝山村大字乙立字向名にあり、目下小規模に探鉱中のものである。

第三系角礫凝灰岩中に黄鉄鉱の微晶が見られる低温性交代鉱床で、最大 1~2t 程度の塊状鉱体をなすが、連続性に乏しい。品位は最高 S50% の部分もあるが平均 30% 程度である。探鉱する価値はあるものと思われる。

2. 神之 鍾 鉱山

鉱業権関係

島根県試登第 3098 号 面積 38,200 坪

鉱業権者 坂 本 源 一

本鉱山は島根県簸川郡出西村大字神水にあり、昭和26年11月より鍾押が試みられている。

第三系砂岩・集塊岩・頁岩・凝灰岩・礫岩の互層の集

対して70°の角度をもっている。問題となるのは下室・中室の設置方向であつて、条件としてはこの隧道、すなわち導水管に平行させたくない。しかして構造物の力を最強にしたいというのである。

3. 意 見

この地点の地質構造を推定するに、隧道から地表までの地層がかならずしも単斜構造の平行した地層であるとは考えられない。また坑口からこの地点に達するまでの間にある断層が、この中間を切るかも知れない。構造物の力を強くするためには、走向には直角の方向に設置するのが望ましいのであるが、上記導水管と平行させたくないということ、および地質条件の変化によつて走向に直角に建設されるとは限らない。よつて設置地点の変更を許されない限り、この地点から切上り坑道を掘鑿して予定尺附近における地層から判断して走向に直角に近くなるよう下室・中室の方位を決定すべきだと思ふ。

(稻井信雄 昭和27年5月稿)

塊岩中にある浅熱水性裂隙充填鉱床で、玉髓・方解石を脈石とする黄鉄鉱脈である。鍾巾は最大 60cm 平均 5cm で、肥大部は延長方向に 5m と続かない。脈は帯状構造を示し、黄鉄鉱は最終晶出鉱物である。品位粗鉄 S20%

3. 地 合 鉱 山

鉱業権関係

島根県試登第 3253 号 面積 854,100 坪

鉱業権者 西 川 政 彦

本鉱山は島根県八東郡伊野村、簸川郡佐香村にあり、昭和26年6月より探鉱を実施している。

第三系緑色砂岩・頁岩・粗面岩質凝灰岩の互層の粗粒質砂岩中に胚胎した裂隙充填鉄である。

鍾は砂岩と頁岩との間の層面断層と思われる粘土帯で切られているが、従来の特徴として砂岩中で肥大する傾向が見られることから、頁岩中での富鉄体は期待できないように思われる。

本鉱床は鉄量ならびに連続性に乏しいが今後は東西性の鉱染状鉄体に注意し、電探の負中心に望みをかけるほかない。(調査：小松 暉・土井啓司、抄録：木村)

553.621:550.85(521.73):622.362.1

丹波珪石に関する技術指導

1. 兵庫県多紀郡村雲村および大芋村所在の播磨耐火煉瓦株式会社丹波鋳業所所属の新田鋳床・坂部山鋳床(以上村雲村)・石根山鋳床・竹谷山鋳床・唐子山鋳床(以上大芋村)の技術指導を行った。

2. 上記鋳床附近の地質は秩父古生層に属する珪岩・砂岩・輝緑凝灰岩等よりなり、走向おおむねEW、傾斜30~70°Sを示しているが、これら古生層は相当擾乱褶曲している。珪石鋳床の上盤は通常チャート、下盤は砂岩または輝緑凝灰岩で、鋳体はその間に芋状またはレンズ状をなして胚胎する。鋳石は赤白および青白珪石で、品質優良である。

3. 今回の調査等より要約される本地域の珪石鋳床の探鉱上注意すべき事項は、おおむね次の通りである。

1) 地層の走向傾斜と上盤・下盤の岩石の特徴を十分に把握すること。

- 2) 鋳体が芋状またはレンズ状体をなしており、したがって厚さが著しく変化する付近では、傾斜角度が往々甚しく変異することがある。
  - 3) 鋳床に伴って多くの場合、黒ボク(含マンガン粘土)が存在(主として上盤際)する。
  - 4) 鋳体の周辺部が往々章魚足状をなし、走向・傾斜を異にすることが多い。
  - 5) 鋳石が割目多くかつ中石を夾むような状態は周辺部に多い。
4. これらの探鉱方針に基いて上記各鋳床の主として坑道掘の具体的な探鉱指導を行った。

(調査: 藺部龍一, 抄録: 岡野)

553.43:550.85(521.16):622.343

福島県石城郡日尙鋳山銅鋳床調査報告

日尙鋳山は田人村大字旅人にあつて荻原鋳業株式会社により経営され、かつて褐鉄鋳を採掘し、目下下部鋳体を探鉱中で、銅・硫化鉄・金・銀・鉛・亜鉛を目的としている。

鋳床は竹貫統を貫く半花崗岩質岩脈中の網状および鋳染鋳体よりなる。鋳石鋳物は主として黄銅鋳・磁硫鉄鋳

・黄鉄鋳・ヒシゲル石で、探鉱不十分なため、規模未詳のものである。報告書内容目次つぎの如し。

1. 緒言
2. 鋳区および鋳業権者
3. 位置および交通
4. 沿革
5. 地質および鋳床
6. 結言 附図4葉

(調査: 奥海 靖・高橋兵一, 抄録: 岸本)

553.431.44:550.85(521.44):622.343/.344

福井県長野鋳山銅・鉛・亜鉛鋳床調査報告

昭和25年度中竜鋳山南部鋳床群の調査に続いて、昭和26年9月より10月に亘つて20日間、中竜鋳山周辺の長野鋳山・荷暮鋳山(銅・鉛・亜鉛)地区地質鋳床調査の報告書であつて、内容は次のとおり。

長野鋳山 (1) 結論 (2) 位置, 交通 (3) 地質 (4) 鋳床 (5) 鋳床の形態および品位

荷暮鋳山 (1) 結論 附図1葉

(調査: 北 卓治・武市敏雄, 抄録: 東郷)